読んでみたい本

児童文学評論家 藤田のぼる

この欄の前号でも名前をあげましたが、那須正幹さんといえば、かつて圧倒的な人気を博していた「ズッコケ三人組」シリーズの作者です。2004年の『ズッコケ三人組の卒業式』で五十巻をもって完結しましたが、三人組が四十歳を迎えたという設定のズッコケ中年三人組」シリーズが翌05年に発刊され、一歳ずつ年を取る形で毎年刊行されてきました。そして、昨年12月に出された『ズッコケ熟年三人組』（ポプラ社）で、ハカセ、ハチベエ、モーちゃんもついに五十歳となり、これをもってこのシリーズも本当に完結ということになりました。

元の三人組シリーズも、時折社会的な題材が組み込まれていましたが、中年シリーズではさらにその傾向が強まり、今度の熟年三人組では、前年の広島市の土砂災害が取り上げられています。というのも（前号でもふれましたが）那須さんは広島市の出身で、三歳で被爆した体験を持っており、「ズッコケ三人組」の舞台ミドリ市は、広島をモデルにしています。かつてこのシリーズに親しんだ先生方やお父さん、お母さんたちには、子ども時代を思い出しながら中年シリーズも楽しんでいただければと思います。

◇

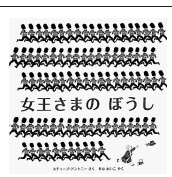
さて、ここからは例によってジャンル、グレード別に本を紹介していきます。まずは低学年向け絵本から。

『なぞなぞおやしきたんけん』（石津ちひろ・文、こみねゆら・絵、アリス館）

おばあちゃんの住むお屋敷に一人で泊まりにきたさやちゃん。朝起きると窓から小鳥が入ってきて、さやちゃんとのなぞなぞ遊びが始まります。さやちゃんが答えるたびに、奥に導かれていき、最後はおばあちゃんの待つ食堂に。なぞなぞを一つ解くごとに、ゴールに近くなっていくワクワク感にあふれた楽しい絵本です。（低学年向き、1400円＋税）

『オオカミのはっこい』（きむらゆういち・文、田島征三・絵、偕成社）

『あらしのよるに』の木村裕一と『ふきまんぶく』の田島征三のコラボのシリーズ。森で一番強いオオカミが出会ったメスのオオカミ、誘いをかけようとするたびに、「オレなんかよりかっこいい友だちがいるかもしれない」「もっと強いオスが好きにちがいない」と、なかなか声をかけることができません。大胆なタッチの田島の絵と揺れるオオカミの気持ちが重なって、独特の世界を生みだしています。（低学年から、1400円＋税）



『女王さまのぼうし』（スティーブ・アントニー作、せなあいこ・訳、評論社）

舞台はまずはロンドン・バッキンガム宮殿。女王さまがお出かけになろうとすると、風で帽子が舞い上がってしまいます。懸命に帽子を追いかける女王さまと犬と衛兵たち。やがてトラファルガー広場からタワー・ブリッジへと、絵本はロンドン名所巡りの様相を呈してきます。黒い帽子に赤い服の大勢の衛兵たちが模様のように描かれる画面構成が魅力的で、絵本らしい楽しさに満ちています。（低・中学年向き、1400円＋税）

『あつめた・そだてた　ぼくのマメ図鑑』（盛口満・絵・文、岩崎書店）

ページを開けると、左右一杯に実物大に描かれた様々な豆。一番大きなモダマという豆は5センチ以上もあります。これらの豆はそれぞれどんなふうに育ち、どのようにして食べられているのか。中にはサヤインゲンのように、中の豆でなくサヤを食べるものもあります。知っているようで、知らないことの多い豆をめぐるあれこれが、ページをめくることに展開していき、自然の力、生命の不思議が実感されていきます。（低学年から、1500円＋税）

◇

次は、低学年から中学年向きの読み物です。

『たんまりうさぎとおしゃべりうさぎ』（安房直子・作、ひがしちから・絵、偕成社）

作者の安房直子さんは、すでに亡くなられていますが、「きつねの窓」など教科書でも親しまれた作家です。その安房さんの連作が絵童話として蘇りました。働き者だけれど一人ぼっちのたんまりうさぎ。ある日、とてもおしゃべりなうさぎがやってきて、かごのなかのくるみもちと畑の野菜を取り替えてくれないかと頼みます。初めておもちを食べただんまりうさぎ、初めて友だちができただんまりうさぎ。あたふたしながらもうれしいだんまりうさぎの気持ちが、じんわりと伝わってきます。（低・中学年向き、1400円＋税）

『わすれものチャンピオン』（花田鳩子・作、羽尻利門・絵、PHP研究所）

となりの席のルミちゃんと、クラスの「わすれものチャンピオン」の座を争っているひろき。お母さんに学校のプリントをわたすのを忘れてしまい怒られた翌日、今度は新しいスニーカーに気を取られて、図工の時間で使うクレヨンを忘れてしまいます。大ピンチのひろきに救いの手を差し出してくれたのは……。筆者自身も小学生時代の失敗を思い出しましたが、これを読んで、まるで自分のことのようだ、と思う男の子もたくさんいるのではないでしょうか。（低・中学年向き、1100円＋税）

『みんなのおばけ小学校』（市川宣子・作、石井聖岳・絵、佼成出版社）

入学式の写真で、新入生たちの後ろに五人もの白いかげが写っている写真がネットに流出、次々に子どもたちが転校してしまい、残ったのは全校で五人だけになってしまいます。この年から校長となったかほる先生は、とにかく五人との新学期を始めたのでした。実は彼女はこの桜小学校の卒業生で、五人のおばけというのは亡くなった同級生たちでした。生前それぞれに活躍していたおばけたちの助力で、子どもたちの学校生活は思いのほか楽しい毎日になっていきます。ひねりの効いた展開で、学校のありようを問いかける物語にもなっています。（中・高学年向き、1300円＋税）

◇

ここからは、高学年および中学生以上が対象の本です。

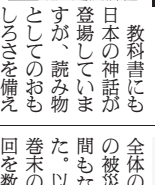
『恐竜は今も生きている』（富田京一・著、下田昌克・絵、ポプラ社）

鳥は恐竜から進化したという説は知っていましたが、本書によれば、ティラノサウルスなどの恐竜には羽毛が生えていて、化石から初めて羽毛が発見されたのは90年代の後半になってからのことだという。こうした近年の研究をふまえて、恐竜からどのように鳥類に進化したのかが、絵と文でわかりやすく説明されており、なるほど感満載の一冊です。（高学年以上向き、1300円＋税）

『茶畑のジャヤ』（中川なをみ・作、岡内ユキエ・絵、すずき出版）

二学期の実力テストで全科目一番の周。しかし、クラスの中で浮いている周にとっては、それは少しもうれしいことではありませんでした。そんな周が本音をもらせる相手は、発電所工事のために日本とスリランカを往復しているおじいちゃん。冬休みを前にこれ幸いとばかりに、おじいちゃんは周をスリランカに連れていきます。

スリランカの工事現場は周の予想以上に雑然とした場でしたが、ここで運転手として雇われているセナの妹ジャヤと出会います。スリランカは長く内戦に苦しみましたが、セナやジャヤの両親は、内戦で対立したタミル人とシンハラ人という珍しい組み合わせでした。おじいちゃんのマイペースぶりに振り回されながらも、周は自分自身への思いを新たにしていきます。こうした舞台設定も今の子どもたちには違和感なく受けとめられるのでは、と思えました。（高学年・中学生以上向き、1500円＋税）



『根の国物語』（久保田香里・作、小林葉子・絵、文研出版）

教科書にも日本の神話が登場していますが、読み物としてのおもしろさを備えた子どものための神話物語は、まだまだこれからという感じです。

この本の主人公ナムジは、出雲の国の第三王子。ナムジの母はわが子を王の後継にするために、かつて出雲を統治した大ヤマトから太刀と弓を授けてもらおうと、スサノオが住むという根の国に息子を赴かせます。小屋のような家に住み、娘と共に畑仕事に精を出すスサノオの姿など、神話のエピソードを裏返すような展開が続きますが、後継をめぐる争いは次第にクライマックスに向かいます。神話の知識がなくとも、古代歴史ファンタジーとして十分楽しめる一冊です。（高学年・中学生向き、1300円＋税）

『AKB48、被災地へ行く』（石原真・著、岩波書店）

アイドルグループAKB48がグループ全体の取り組みとして、東日本大震災の被災地訪問を始めたのは、震災から間もない2011年5月のことでした。以来毎月休みなく続けられ、本書巻末の表によれば昨年8月の段階で52回を数えています。長く続けられるように、そして現地に負担をかけないように、舞台はステージトラックを使うこととし、メンバーは6人まで、ミニライブとハイタッチ会で構成、スタッフも最小限にするためにメイクなども自分でやる、という原則を作りました。

著者は第1回からこの活動をプロデュースしてきた方で、これまでのコンサートの中での様々なできごとや、メンバーがこの活動の中で何を感じてきたかなど、臨場感あふれる報告となっています。（中学生から、1000円＋税）

『ちいさなちいさなベビー服』（八束澄子・著、新日本出版社）

表紙には薄緑とピンクのかわいいベビー服の写真。これは市販のベビー服よりずっと小さな手作りのもので、実は病院でなくて入ったお赤ちゃんのためのものなのです。会敷中央病院にはボランティアの手芸サークルがあり、妊娠途中、また生まれて日が浅いうちに亡くなってしまった赤ちゃんのために、このベビー服が作られているというのです。こうした活動がいつからどんな経緯で始まったのか、そしてボランティアの人たちはどんな思いをこめて作っているのか。著者自身がこの活動を体験しながら、様々な人たちとの対話の中で生と死をめぐるドラマを見つめた、意義深いノンフィクションです。（高学年・中学生以上向き、1400円＋税）

ベルマーク寄贈者（敬称略）

9月21日から10月20日までに届いた分

一般寄贈マーク

▼北海道　江別市立大麻東小学校　金子信子　佐藤隆史　館岡隆　直人▼宮城県　緒方貴則　ASA小牛指・狭山ヶ丘　石畑美幸　山田一郎　ヤマト運輸労働組合北東京部　ヤマト運輸労働組合埼玉支部　千葉県　岡田ときこ　高橋直子　田端淳　宮澤恭子▼東京都　伊東かおる　笠原中子　気まぐれキッチン　久保光枝　城南信用金庫　須永雄治　馬場千夏　古川道夫　前原加津子　吉野千鶴子　渡辺久瑠美▼神奈川県　小嶋一夫　旅河信子　東芝プラントシステム株式会社経理部IFRS・J-SOX対応推進部　渡辺洋子▼新潟県　清野薫枝▼富山県　渋谷彰一▼長野県　塚田康子▼岐阜県　真瀬雅子▼静岡県　美原たかし　竹野良枝　矢野由夏▼三重県　キリンビバレッジ株式会社　大久保千敏子　阪口敏子▼大阪府　伊村定夫　大西祐子　株式会社萬栄　上枝美弥子　小寺友香里　佐野絵里奈　ジプラル生命保険株式会社なんば支社　鈴木陽子　西田恵子　松本由美子▼兵庫県　小野和美　丸神戸店　福田登三枝　渕上文乃　古池和恵▼奈良県　堀田幸代▼島根県　株式会社イーウェル松江オペレーションセンター▼岡山県　株式会社さくらら▼広島県　佐々木瑞穂　三上紀代子▼山口県　機村勝規　見玉文子▼福岡県　キリンビール株式会社福岡工場　鞘野正人　松田優子▼長崎県　久保山繁樹▼大分県　石堂泰史▼宮崎県　石橋憲▼無記名＝27件

9月21日から10月20日までに届いた分

大震災寄贈マーク

▼北海道　旭川医科大学病院　岩永志穂　山田健二▼青森県　山田聖　関見町ベルマーク委員会▼茨城県　中山惠子▼栃木県　大関千葉県　MS&AD事務サービス株式会社　関田元子　名田明・直子▼東京都　井上恵里子　岩田美雪　株式会社大塚商会　北原真由巳　キリンビバレッジ株式会社　住友不動産建物サービス株式会社　田中真子　田口薫　田中真寿子　中央協同株式会社　日本基督教団小金井緑町教会　日本ビジネスシステムズ株式会社▼神奈川県　ASA二俣川　加藤容子　斉藤薫　特別養護老人ホーム東橋本ひまわりホーム　新村美津子　牧田知子▼新潟県　小林英子　東京海上日動火災保険株式会社▼山梨県　齊藤恭子▼長野県　伊藤伸子▼岐阜県　JAポート岐阜▼愛知県　ホーユー株式会社社長室　堀部悦子　成田得子▼三重県　なの花薬局明和店▼滋賀県　三菱樹脂株式会社長浜工場・浅井工場▼大阪府　奥中弘美　上枝美弥子　公益法人門真市シルバー人材センター　百島基　奈良県　樫山紗奈　鷹取淳子▼広島